

社会科学習指導案（歴史的分野）

1 単元名 「第二次世界大戦と日本」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領歴史的分野の内容（5）カ「経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の集結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる」を受けて設定されている。第二次世界大戦における戦争の拡大、太平洋戦争が始まるまでの経緯となぜ太平洋戦争が起きてしまったのか、その要因について考えさせるような取り組み。戦争の惨禍を知り、二度と戦争を繰り返さないようにするためにどうすればいいのか考えさせる取り組み。終戦が日本にどのような影響を与えたのかを学ばせる単元構成を心掛けた。

20世紀前半の世界では、第一次世界大戦の終結により、国際協調と民族自決の意識が高まっていた。しかし、その後の世界恐慌という経済の混乱を機に、世界全体が国際協調路線に進もうとしていたにもかかわらず、結果的に二度目の世界大戦を招いてしまう。欧米列強は植民地を活用したブロック経済と国内政策によって恐慌を乗り越えてゆき、日本、ドイツ、イタリアはファシズムによる他国侵略によって経済復興をめざしていった。日本では政党政治が行き詰まりをみせたことで軍部が台頭しはじめていく。日本は中国における権益を取り戻そうと、満州事変が勃発したことをきっかけに満州国が建国され、日本は大陸での勢力を拡張していくことになる。しかし、国際連盟から派遣されたリットン調査団に否定されたことをきっかけに、日本は国際連盟を脱退して国際的に孤立していく。満州を支配下に置いた日本は更に進行を進める。盧溝橋で起きた日中両軍の武力衝突をきっかけに、日中戦争が始まる。近衛文相内閣の下で国家総動員法が制定され、政府は議会の承認なしに、労働力や物資を動員出来るようになる。その後、日本と中国との戦争が長期化し、苦しい状況が続いた日本はやがてドイツ、イタリアと三国同盟を結び、アメリカ合衆国、イギリス、そして終戦直前に参戦したソビエト連邦など世界中を巻きこむ第二次世界大戦へとつながってしまうことになる。

今回取り扱う「太平洋戦争」では、これまでの単元で学んだ基礎的・基本的な知識を活用して、課題を追究する授業を展開する。具体的には、「なぜ太平洋戦争が起きてしまったのか。」という課題を解決していく中で、なぜ日本がアメリカに宣戦布告し、多大な犠牲を払うこととなる戦線に突入していったのかを追究していく。日中戦争の長期化を背景に、中華民国への援助物資の輸送路である援蒋ルートへの遮断を目指した。同時に、資源が不足している日本にとって必要な石油、天然ゴム、鉄鉱石、ボーキサイトなどの資源の豊かな地を獲得しようという南進論が強まった。こうしてフランス領インドシナやビルマ方面への進出を図るようになる。この動きがアメリカ・イギリスとの対立を深刻にさせることとなり、オランダも加わった石油輸出禁止などの強硬な制裁措置がとられるようになる。日本では、戦争中の中国の頭文字を合わせてABCD包囲網と呼ばれる事態となった。更に、アメリカから最終案としてハル・ノートが提示されたが、中国、北部仏印からの撤退に加えて満州国の放棄を求めるなどの内容であったため、日本に降伏を要求するに等しいものであり、とても日本が飲む条件ではなかった。そのため、日本は開戦を決意し、1941年12月にハワイのアメリカ軍基地真珠湾を奇襲攻撃し、太平洋戦争が開始される。このように、さまざまな状況から国家存続の危機へと徐々に追い詰められ、開戦へと繋がる過程に気付かせていきたい。本単元は、日本で開戦するしかないという主張がなぜ高まったのか。戦争を避けることができなかった背景には様々な要因があったことを理解させることで、社会的事象の意味、事象間の関連を説明することができる単元となる。本授業では、どの出来事が戦争の要因として大きかったのかを生徒に考えさせ、太平洋戦争を自国の繁栄のために行ったのか、それとも様々な要因から選ばざるをえなかったのか自分の意見を持たせたい。戦争が起きた背景として、当時の人々が難しい判断を迫られたという時代的特色に気付かせ、国際協調と

国際平和の実現につとめることの大切さと難しさを感じさせたい。

また、学習指導要領の内容（１）ウ「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる。」を受け、学習した内容の比較や関連付けを通して、言葉で表したり、互いに意見交換したりする学習活動により、時代の特色を踏まえて理解させることが期待できる。

3 単元の見目

- (1) 太平洋戦争の開戦までの流れを理解することができる。(知識・理解)
- (2) なぜ太平洋戦争が起きたのか、日本の立場を捉えて自分なりの意見を持つことができる。(思考・判断・表現)

4 単元の指導計画について(6時間扱い)

時間	小単元名	主な学習課題	指導や支援の手立て
1	第二次世界大戦の始まり	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争がヨーロッパで起こり、拡大していった経緯を理解する。 ・ドイツやイタリアと同盟を結ぶなど、日本が選んだ行動について、国際的な視野で考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパで起こった戦争の原因・経過を理解している。(知識・理解) ・日独伊三国同盟を結んだ日本の行動について、国際的な視野を踏まえて自分の意見を述べている□。(思考・判断・表現)
2	太平洋戦争の開始と様子	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争の経緯と概要について理解し、とらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太平洋戦争の経緯について、概要を理解している。(知識・理解)
3 本時	太平洋戦争の要因	<ul style="list-style-type: none"> ・開戦に踏み切った日本の立場と思考について考え、話し合う。 ・日本のとった南進政策について考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ太平洋戦争が起きてしまったのか、日本の立場を捉えて自分なりの意見を持つことができる。(思考・判断・表現)
4	戦時下の人々	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争の長期化とともに国民生活が破綻していく実態を理解する。 ・当時の様子を知る機会を設定し、戦争の持つ意味を問い直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の様子を知ることに意欲的に取り組む態度が身に付いている。(関心・意欲・態度) ・日本国内のみでなく、植民地や占領地における状況を理解している。(知識・理解)
5	戦争の終結	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ・イタリアの降伏、沖縄戦から原爆投下などを通して、戦争終結の経緯を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア・ドイツの降伏、沖縄戦、原爆投下などの戦争終結までの概要を理解している。(知識・理解) ・戦争と国民について関心を持ち、自分の意見を述べている。(思考・判断・表現)
6	パレスチナ問題の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・パレスチナ問題について、古代から現代に至るまでの経緯を理解する。 ・これからの中東の問題について考え、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・列強の利害の中で生じたパレスチナ問題について、関心を持っている。(関心・意欲・態度) ・古代から現代に至るパレスチナ問題についての歴史の流れを理解している。(知識・理解)

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①なぜ太平洋戦争が起きてしまったのか、日本の立場を捉えて自分なりの意見を持つことができる。
(思考・判断・表現)
- ②太平洋戦争が起こるまでの経緯を理解できる。(知識・理解)

(2) 展開

時配	学習内容と活動	●指導や支援の手立て ◇評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○太平洋戦争の様子から本時の内容を確認する。 ○被害の大きさを確認する ○本日の学習課題を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ●真珠湾攻撃と東京大空襲、沖縄戦の画像を大型テレビ等で提示し、知っていることを自由に発表させる。 ●戦争死者数の資料を提示し、被害の大きさを確認する
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> なぜ太平洋戦争が起きてしまったのか、その原因について考えよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の授業で学んだ、太平洋戦争の概要を確認する ○ワークシートの資料から、日本がどのような状況だったのかを読み取る。 ○太平洋戦争が起きた要因として、自分が一番大きいと思うものを選び、その理由を考えてワークシートに記入する。 ○班内で、自分の考えを発表する。 ○班員の意見を聞き、ワークシートにまとめる。 ○話し合いで班の意見を1つにまとめ、ホワイトボードに番号と理由を記入する。 ○太平洋戦争が起きた原因として1番大きいと思うものを選び、理由を班ごとに発表する。 <p>【予想される意見】 ※昭和恐慌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活が非常に苦しく、領土を手に入れないと国民を守れないから。 ・日本は経済的に追い詰められていたから 	<ul style="list-style-type: none"> ●概略を説明し、出来事の内容を掴ませる。 ●ワークシートに記載されている太平洋戦争以前の資料を簡単に説明し、取り組みやすいように助言する。 ●机間指導を行い、状況が理解できるように助言をする ●資料にはどのような事が書かれているのか、わかりやすくヒントを記載しておく。 ●自分の考えを記入しやすいように、要因ごとに整理してワークシートに記入させる。 ●班活動のルールを確認する。 ●座席を班にさせ、班の中で自分の意見を発表し、班としての結論を出させる。 ●ホワイトボードに理由を添えて、簡潔に記入させる。 ●全班の結論を、助言を与えながら全体で確認させる。

	<p>※満州事変</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本にとって満州の資源は必要不可欠だったから ・中国などの反発を生んでしまったから。 <p>※「大東亜共栄圏」での資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は資源を手に入れるために南進するしかなかったから。 ・欧米の植民地支配からアジアの国々を開放しようとしたから。 ・日本の領土を広げようとしたから <p>※日独伊三国同盟</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシズム国家として、連合軍と対立してしまったから。 <p>※国際連盟の脱退</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が世界から孤立するきっかけになってしまったから。 <p>※長引く日中戦争と援蒋ルート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援蒋ルートを立たなければ、日中戦争を止められないと考えたから。 ・日中戦争が長引いてしまい、日本は苦しかったから。 <p>※アメリカの日本に対する石油輸出禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本はほとんどアメリカからの輸入に頼っていたため、石油を絶たれると国家運営が成り立たなくなるから。 <p>※ハル・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本はハル・ノートを拒絶してしまったから。 ・とても日本が受け入れられるものではなかったから。 ・日本は全てを放棄して降伏するのは難しかったから。 	
<p>まとめ 15分</p>	<p>○なぜ起きてしまったのか、各班の意見をもう一度整理する。</p> <p>○本時の感想、まとめを記入し、発表</p>	<p>●本時の内容をおさらいし、日本の置かれていた立場を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の判断が難しいことに気付かせる <p>●生徒の意見を集約し、本時の学習でわかったこと</p>

	する。	をまとめ、確認する。 ・当時の人々が戦争を選んだ背景に、様々な要因があったことをつかませる
--	-----	--

(4) 本時の評価

評価① なぜ太平洋戦争が起きたのか、日本の立場を捉えて自分なりの意見を持つことができたか。

(思考・判断・表現：観察、ワークシート)

評価② 太平洋戦争の開戦の因果関係を、理解してまとめることができたか。(知識・理解：ワークシート)

太平洋戦争②

組 番 名 前

学習課題

なぜ太平洋戦争が起きてしまったのか、その原因について考えよう

チャレンジ

『次の中で、太平洋戦争の原因として、1番大きいと思うものを選んでみよう!』

①昭和恐慌 1930年～



ダイコンをかじっている子ども

日本では深刻な大恐慌が起こる
更に、東北地方などでは大凶作も重なり
人々の生活はさらに苦しくなった...

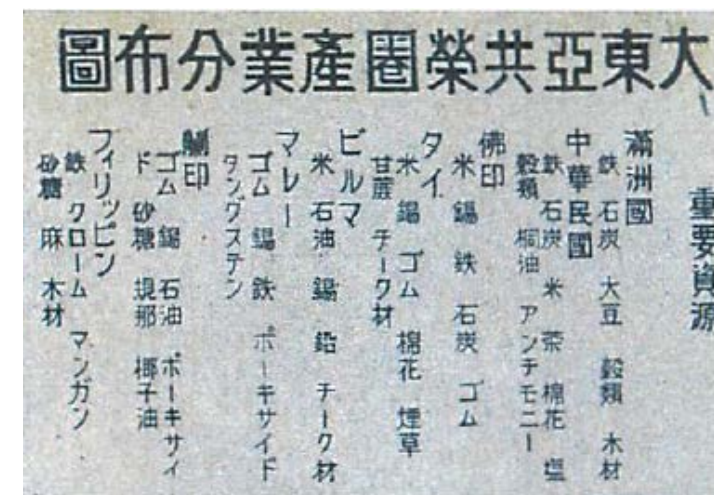
②満州事変 1931年～



日本は
「満州は日本の生命線」
であるとして、満州の影響を強めていった。

満州には質の良い石炭や鉄などの鉱産資源が豊富にあった。

③「大東亜共栄圏」での資源と南進



日本は、貴重な石油やゴムなどの資源を手に入れるために
現在のベトナム、インドネシアなどに軍を進めた(南進)。
「大東亜共栄圏」を目指して、欧米の植民地支配を打ち破り、ア
ジアだけで栄えていこうと主張した

自分達の繁栄のため?

⑤国際連盟の脱退1933年～

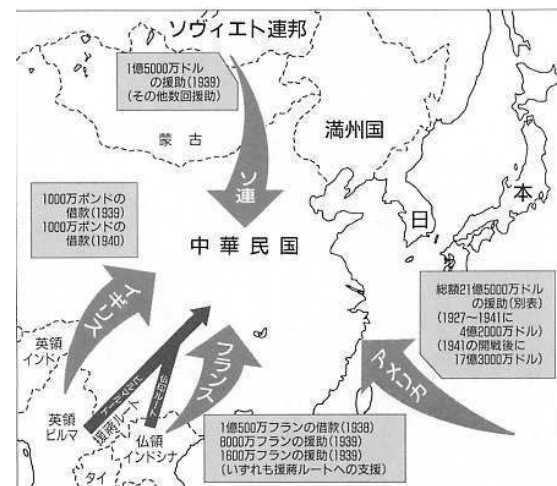


満州国が建国された後、
満鉄の調査をするリットン調査団と、
国際連盟脱退を知らせる新聞

日本は国際連盟の常任理事国だったが、
国連が満州国を認めなかったことに反発した。

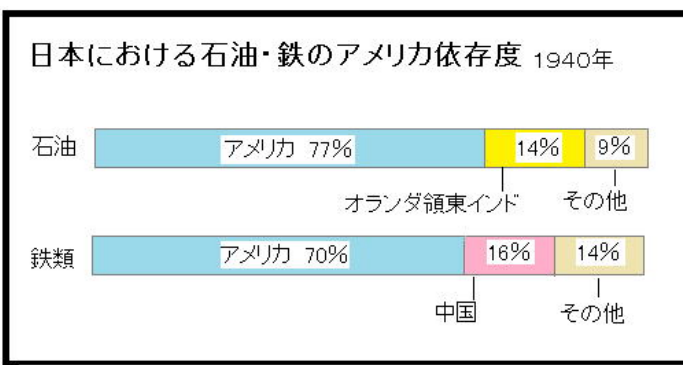
追い詰められて?

⑥長引く日中戦争と援蒋ルートと南進



日中戦争は予想以上に長引き、日本は苦
しい状況に追い込まれた。
その背景に、
アメリカやイギリスなどが中国を支援す
るルートがあった(援蒋ルート)。
日本はそれを断ち切るために南進をはじ
めた。

⑦アメリカの日本に対する石油輸出禁止1941年



日本は石油と鉄の多くを、アメリカから輸入していた。
しかし、1941年にアメリカが日本への石油輸出を禁止
した...

石油がなければ船も飛行機も、色々な工場も動かすこ
とができない。
国家に必要な不可欠なものである。

⑧ハル・ノート

日米交渉の決裂 1941(昭和16)年11月26日

ハル・ノート ハル米務長官の最終的な
対日提案。中国・仏印からの日本軍撤退など、中
国を満州事変以前の状態に戻すことを要求した。
日本側は最後通牒と判断し、日米開戦を決意した。

ハル米務長官による最後の要求
「ハル・ノート」は、

- ①日本は全ての軍を撤退せよ
- ②持っている領土を全て、日露戦争以前に戻すこと
- ③日独伊三国同盟を破棄すること

とあり、事実上降伏を求めるものであった。
日本は「とても飲める要求ではない」と反発した。

組 番 名前

(あなたの考え) 番号【 】
理由

(班の人の考え)

番号	理由

(班で意見をまとめよう!) 番号【 】
理由

(他の人の考えメモ)

感想

